

■ 2学期、順調ですか？



8月19日(水)に始業式があり、その日から授業もスタートしました。まだまだ暑い日が続きますが、2学期の生活は順調にスタートできましたか？

2学期は気候も良く、学習にスポーツに、読書や文化的な活動に・・・と、それぞれ目標をしっかりと立てて充実した生活をしていけるようにしていってほしいものです。特に3年生諸君は、進路活動を本格化させていかなければならない時期になります。「希望進路実現」に向けて、緊張感を持って取り組んでいきましょう。なお、これからは3年担任の先生方の調査書作成が立て込む時期です。必要な人は、2週間くらいの余裕を持って、進路指導室で申し込みましょう。総合型入試が始まる時期ですが、各大学や専門学校に送付する志願書も必ず担任の先生や進路指導担当の先生にチェックしてもらうようにしてください。いずれにしても、手遅れにならないように早め早めに進めていくことが大切です。

■ 就職戦線に向けて



夏休み中に、就職を希望する3年生の多くが、企業の職場見学に参加してきました。中には3社ほど見学してきた人もいます。それぞれ丁寧に案内していただき、どの企業の採用試験を受験するか迷っている諸君もいるのかもしれない。密を避けるために、事前にまとまった形での指導がなかなかできませんでしたが、職場見学のお礼状を必ず出すようにしましょう。書き方等は進路指導係で指導しますので、進路指導室に来室してください(※就職試験後も採否に関わらず、必ず受験させていただいたことに対してお礼状を出すように指導しています。時期が来たら、該当者には声を掛けます)。

職場見学などでご説明いただいたこと、実際に自分の目で確かめたこと等をもとに志望企業を決めるようにしましょう。コロナのこともあり、例年よりも1か月後ろ倒しの形で採用試験のスケジュールが組まれる(10月16日に採用試験解禁)こととなりますが、今後は履歴書の準備、面接の練習を進めていかなければなりません。特に自分の言葉で志望動機を書けない(面接で説明できない)生徒が例年多く見られます。伝えたいことをいくつか箇条書きでまとめ、文章化すると良いでしょう。一定程度の基礎学力も身につけておくよう、基本的な問題集にも取り組んでみましょう。進路指導係で準備できるプリント(国語・数学・英語・社会の問題)があります。必要な人は進路指導室に足を運んでください。夏休み中に職場見学に行けなかった人は、9月の前半までに受け付けてくれる企業があれば、ぜひ参加すると良いでしょう。

警察、消防、自衛隊などを目指す諸君も面接等はもちろん、基礎学力の向上に努め、しっかりと準備して試験に臨みましょう。

■ 大学等の受験について



例年であれば、夏休み中に開催される大学等のオープンキャンパスで、学校の雰囲気確かめたり、模擬授業を受けたりすることで、志望校を決定していくケースが多く見られるわけですが、今年度はリモートでのオープンキャンパス開催の学校が多いということで、例年のような形での学校選択が難しい状況だったかもしれません。そういった中でも、しっかりと検討し、志望校を決定させてほしいものです（※9月の総合型を中心に、入試日程も当初と変更になっているケースもあるようですので、注意しましょう）。実際、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県だけでなく、日本全国の多くの大学、短大、専門学校では、未だに新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校に通学して授業を受けられない状況が続いているようです。したがって、特に1年生は志望校に入学できたとしても、入学式も執り行われず、学校の教場で授業も受けられないということで、地方から東京の大学に入学した人は、「何のためにこの大学に入学したのだろうか？」と途方に暮れている状態にあるという記事を新聞で読みました。挙句の果てに、この夏休み中は「実家に帰省しない」という選択をした学生も多かったようです。見知らぬ土地で、さまざまな制約がある中での生活に、ストレスが溜まって仕方がないという学生も多いのかもしれませんが。「こういった状態がいつまで続くのだろうか」と考えると、気が遠くなります。

上述のようなこともあってか、今年度は「地方国立大学の人気が高まるのではないか」という見方もあります。国立大学ということであれば、5教科7科目について、ある程度しっかりとした学力を身につけておく必要があります。東京の私立大学に絞っていく考えの人もいるでしょうが、志望校に合格できても、なかなか通常の形での学生生活は難しいかもしれません。東京に限らず、そのこともよく考えたうえで、志望校を決定させていく必要があるでしょう。

■ 3年生、進路活動に伴う書類関係について

3年生のみなさんは、進学・就職を問わず、入学試験・入社試験を受ける場合に、調査書が必要になります。例年と比較して、就職試験が1か月後ろ倒しになり、学校の総合型選抜も若干後ろ倒しになるようですので、例年よりも担任の先生の9月中の負担は少ないのかもしれませんが、できるだけ早めに進路指導室で申請してください。その他、公欠願等も忘れずに提出してください。なお、例えば、「いわき市内の企業で、午後2時からの職場見学に参加するために、その日の午前中は休みました」と話していた生徒がいますが、この場合、午前中丸々「公欠」になるわけではありませんので気をつけましょう。もちろん、企業の場所によっては、バスの時間等々、配慮しなければならないことがあるでしょうが、よく分からない場合には、事前に担任の先生や進路指導担当に相談してください。その他、「推薦願」は、少なくとも推薦受験の前までには提出するようお願いします。



■ 野球部のみなさん、お疲れ様！



7月下旬から8月上旬にかけて、福島県高等学校野球大会の代替大会が行われました。熱戦を繰り広げた野球部のみなさん、お疲れ様でした。

本校の初戦（2回戦）となった7月24日（金・スポーツの日）に、筆者は出勤して職員室で仕事をしていました。午後4時半頃だったでしょうか。ある女性の方から、「野球の結果はどうになりましたか？」との問合せがありました。学校に試合の結果について報告があったわけでもなく、頭に試合のことはあったものの、結果を確認していませんでした。そこで、インターネットの速報で確認したところ、「2対12で尚志高校の勝ち」となっていました。「えっ、何かの間違いじゃなの？」と青ざめた筆者・・・。

帰り際、偶然にも試合を終えたばかりの野球部の3年生と鉢合わせになりました。笑顔で自転車をこいでいたので、それとなく「試合はどうだったの？」と聞いてみたところ、「12対2でコールド勝ちです！」と答えてくれました。何と本当に間違いだったのです！！筆者の見間違いかと思いき、後でもう1度筆者が見たインターネット速報を確認したら、やはり「2対12で尚志高校の勝ち」になっていました。ある地元テレビ局のその日の夕方のニュースで、昌平対尚志の1戦を取り上げて、「昌平が12対2で5回コールド勝ちした」と伝えており、本当に心からホッとしたという一幕がありました。

その後、3回戦で県立石川高校に8対1、4回戦で郡山高校に5対0と順調に勝ち上がりましたが、準々決勝で須賀川高校に2対9で敗れました。本紙第3号で、主将の小松大介君が、「やるからには“てっぺん”取ります！」とテレビ局のインタビューに答えていたことを紹介しました。小松君だけでなく、野球部全員がそのつもりで臨み、周囲の期待も大きかっただけに準々決勝での敗戦は残念ですが、1・2年生のみなさんは3年生の思いを継承し、ぜひ、来年に繋げて行ってほしいと思います。

野球部に限らず、多くの各競技専門部でインターハイの代替大会が8月までに実施されたことと思います。練習できなかつた期間も長く、なかなか練習の成果を発揮できなかつたという諸君もいるでしょうし、逆に完全燃焼できたという諸君もいることでしょう。コロナウイルス感染拡大防止のため、代替大会自体行われなかつたという専門部もあると聞いています。最後の試合もできないまま引退を迎えた諸君は、残念な思いを強くしていることと察します。文化部のみなさんも、地区のコンクール等がすべて中止になった部があったり、大会が開催される高知県を訪れることなくWEB上で全国大会に出場した部があったりするなど、例年と異なる中での対応で苦慮することも多かつたのではないかと思います。

2学期が始まり、3年生はいよいよ進路活動が本格的に始動したところです。悔いの残らぬよう、しっかりと準備して、それぞれの試験に臨みましょう。本来であれば、高校時代ならではの思い出をいろいろと作り、さらに上へ向かって進んで行ってほしいという思いがありますが、今はなかなかそのようなことが言えない状況にあります。ただ、1つだけ確実に言えることがあります。みなさんの人生はこれからの方が圧倒的に長いということです。特に就職について言えば、「高校3年間、しっかりと部活動に取り組んできた生徒を積極的に採用したい」という企業が多いようです。先日も、ある建設会社の社長さんが来校し、「3年間、部活動に取り組んできた人は心身ともに鍛えられているので、ぜひ採用したい。紹介してください」と話されていました。みなさんの努力次第で、いくらでもさまざまな道が切り拓けます。これからの時期をそのための準備期間として、1日1日を大切にしていってほしいものです。

■ある卒業生の話



7月にいわき市内のある看護学校の担当者の方が学生募集のため来校した際、話を伺っていて驚いたことがあります。本校の卒業生で、東京都内の名門大学を卒業したMさんが、現在その看護学校に在籍しているとおっしゃったのです。Mさんは本校卒業後、東京・新宿区にある国内最難関の私立大学に進学しました。高校時代、Mさんは将来、国際機関で働くことを希望していて、そういった志望理由で国際関係の学部を選択したと聞いています。筆者はてっきり、Mさんは大学卒業後、国際機関などの就職先を選んだものだとばかり思っていました。

Mさんが進学した大学の学部では、海外留学が必修となっています。直接本人と会って話したわけではありませんので、ここからは筆者の経験に基づく想像になってしまうのですが、おそらく、Mさんは発展途上国の大学に留学したものだと思われます（仮に留学先が先進国だったとしても、「貧富の差」の問題に直面したのではないのでしょうか？）。筆者に海外での留学経験はありませんが、大学時代にゼミで「国際経済論」を学び、その中で毎年数回、東南アジアを中心に実地研修に行っていました（※このような取り組みは、現在全国のどの大学でも普通に行われていますが、当時はまだそれほど多くなかったと言えます）。その際、路上生活を強いられている子どもたちに遭遇することが多くあり、何もできないでいる自分に無力感を抱いたことが何度もあります。ひょっとしたら、Mさんもそのような心境になり、「人助けになる仕事」ということで考え抜いた結果、「看護師」に行きつき、「新たに看護学校で学ぼう！」と決意したのではないかと思った次第です。看護学校担当者の方によると、「いろいろ考えて、看護学校への入学を選択した」（本人の弁）とのことでした。

Mさんの通う看護学校の学生が写るポスターの集合写真に、Mさんがにこやかな表情で年下の同級生たちと写っていました。新たな目標に向けて、新鮮な気持ちで学校生活に臨もうとしている印象です。大学で培った専門的な知識・経験にプラスして、看護学校での知識・技能を活かして、Mさんが行きつく先はどこなのか注目し、今後また新たな情報を得たときに、このような形でみなさんにお知らせできたらと思います。

Mさんの通う看護学校には、一昨年度の卒業生のKさんも在籍しています。Kさんは絵が上手で、筆者も含め、多くの先生方が似顔絵をプレゼントされており、classi上で似顔絵を拝見できる先生もいます。看護学校では、文化祭の広報用ポスターを制作したりする際に、一役買っているようで、「積極的にイラストを描いてくれて、助かっています」と先に記した看護学校の担当者の方が話されていました。Kさんは持って生まれた才能からすると、イラストレーターなどへの道もあったのではないかと思います。本人が高校在学中、目指していたのは、「看護師の資格を得られる大学、専門学校への進学」であり、現在学業だけでなく、趣味的な部分でも充実した生活を送っているのだなど、話を伺っていて思いました。

看護師の道は、人の命に関わるものであり、決して簡単なものではありませんが、ここ数年、男女を問わず、看護関係の大学や専門学校に進学しているケースが多く見られます。みなさんの中で、希望者がいれば、ぜひ希望進路実現に向けてがんばってほしいものです。

（注）文中のイニシャルは本人の名前をもとにしています。

文責：清水聖（進路指導主事）